

Be-News

Beppu University, Beppu University Junior College Magazine

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部

NO.113
2016 AUTUMN

Be-News

特集

ふるさとを元気にする
学びのネットワーク

研究室訪問
学びのトレン
クロースアップ別大生
卒業生インタビュー
こんにちは先輩!!
学園からのお知らせ

編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／平成28年10月11日 印刷／佐伯印刷株式会社
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 TEL.0977-67-0101
禁断転載



LINE@



真理はわれらを自由にする

Be-Museum



「赤の空間」

丸岡 あすか（文学部 国際言語・文化学科4年）

私は偶然の中にキラッとした部分を見つけ、それを大切にしている。

自分の感覚に素直になり、私だけの空間を生み出す。

（F50号 油彩）※2016春季県美展「奨励賞」受賞

2016 別府大学・別府大学短期大学部学園祭



石垣祭

別府キャンパス

11.5sat
～6sun



秋桜祭

大分キャンパス

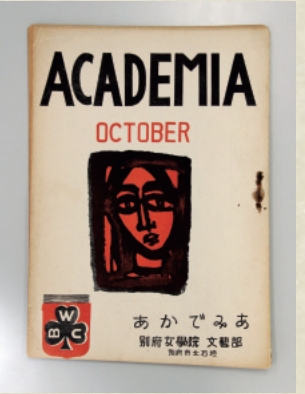
11.26sat

楽しいステージイベントや模擬店も多数出店します
みなさんのご来場お待ちしております～♪



文芸誌『ACADEMIA』創刊70周年

『別府大学紀要』のはじまりー



「ACADEMIA」創刊号

女子専門学校として発足した本学は、女子大学時代を経て、男女共学の時代に入っても教員・学生一体となった「文芸活動」が盛んでした。その活動は、終戦から1年2ヵ月を経た昭和21（1946）年10月に、別府女学院文芸部から発行された『ACADEMIA』が今に伝えています。「アカデメイア（尾渡達雄）」「フリードリッヒリストを憶ふ（正木一夫）」「蕉門作家、近江の三女性（松本義三）」など教員の小随筆5編のほか、学生らの小作品・小随筆などが掲載されています。巻頭には「女だから出来ない」といふ考へを、女自身で打破すると同時に、みんなも「働いて勉強する」人達に正當な理解を持たなければ

ならないと思ふーとあり、戦後1年余、新しい時代の到来に歓喜する新生別府女学院の雰囲気伝える数少ない資料でもあります。

『ACADEMIA』は2号で終刊し、その後、短歌会誌『第一集ふもと』、『第二集 海原』が刊行されました。昭和25年に別府女子大学の開学とともに、別府女子大学会が組織されると、学術研究の成果を『別府女子大学紀要』として公開し、昭和29年に別府大学に改称した際に『別府大学紀要』と改められました。

大学での教育は、教員の学術研究に裏付けられるものであり、教育と研究は車の両輪関係にあります。

『ACADEMIA』をルーツに、現在本学では『別府大学大学院紀要』『別府大学紀要』『別府大学短期大学部紀要』のほか、『別府大学国語国文学』『史学論叢』『ゆけむり史学』『初等教育』『Global Management』『別府大学司書課程』『別府大学日本語研究』など、学科や研究会が研究成果を発表しています。

別府大学アーカイブズ



特集

ふるさとを元気にする 学びのネットワーク

別府大学の学生の学び舎は、キャンパスだけではありません。まちに飛び出し人々とふれあい、企業や自治体と手を取りコラボ商品を生み出す…など、その活躍は実にさまざま。学生たちの自由な発想ややる気がどんどん開花して、地域や企業の「元気」につながっています。地域の中で学びの枠を広げる、学生の活動をクローズアップ！



Be-News NO.113 CONTENTS

- 03 特集
ふるさとを元気にする
学びのネットワーク
- 10 学科からのトピックス
- 13 研究室訪問 学びのトビラ
教職課程 講師 針塚瑞樹
- 14 クローズアップ別大生
奥田 桂三
（食物栄養科学部 発酵食品学科4年）
森田 早也香
（短期大学部 食物栄養科1年）
- 16 キャンパスボイス
テーマ/ストレス解消法
- 17 サークル紹介
別府大学吹奏楽団
FOBUL
- 18 卒業生インタビュー こんにちは先輩!!
森山 凌さん
（国際経営学部 国際経営学科卒業）
山村 充乃さん
（短期大学部 専攻科初等教育専攻修了）
- 20 学園からのお知らせ
- 22 国際交流
アートを通じた国際交流
宇佐と杵築で日本文化体験
- 23 インフォメーション



「トキハ別府店」のプロジェクトチームと、今後のまちづくりやトキハの方向性についてディスカッション

日本一の温泉湧出量を誇る別府市は、年間800万人の観光客が訪れるにもかかわらず、駅周辺の人通りが少ないのはなぜか？この現状をふまえて国際経営学科の中山ゼミでは、別府市中心部の核として機能している「トキハ別府店」に着目して、まちづくりにおけるトキハの方向性を他の先行研究と比較しながら考察しています。

トキハ別府店は昭和63年にオープンして以来、地域にとってのシンボリックな存在ですが、売り上げの低迷などさまざまな課題に取り組んできました。大胆な構造改革を実行し、近

REPORT 2

国際経営学科

未来の百貨店のあり方とまちづくりについて考える



REPORT 1

食物栄養学科

産学官がコラボしたうま塩プロジェクトが実現！



最終審査に残った学生が、アイデア満載のうま塩メニューを調理

旨みをもつ地域の食材を上手に調理して、おいしく減塩生活を―大分県が推進する、「うま塩プロジェクト」の普及活動に食物栄養学科の研究室も参加しています。平成27年度にその一環として、各地域の祭りやうま塩レシピを披露。醤油や味噌と比べて塩分が低く、旨みが豊富ということから、調味料としてトマトケチャップを使ったところ評判でした。これがきっかけとなり、大手トマトケチャップメーカーのカゴメ(株)から「学生のアイデアをもっと広く多くの人に伝えたい」と提案があり、別府



テーマに合うかどうかに加え、味や盛り付けなど多様な面から審査

大学とカゴメのタイアップ企画が実現したのです。平成28年7月、うま塩と地産地消をテーマとしたメニューコンテストを別府大学で開催(大分県、(株)トキハインダストリー、(株)めいじん後援)。県のうま塩プロジェクトの取り組みでは初となる、産学官連携のイベントとなりました。

コンテストで募集したのは、県産食材とカゴメのトマトケチャップもしくはトマトソースを使った減塩レシピ。当日は食物栄養学科の1~4年生が考案した164品の中から最終審査に選ばれた9品を実際に調理し、試食、審査を行いました。その結果、見事グランプリを勝ち取ったのは橋本弥希さんと松岡詩織さんの考案した「うま塩ひじき」。県産の干し椎茸をダシに使い、醤油の量を半分にすることでトマトケチャップを入れることで旨みを活かし、塩分が通常に比

REPORT 3

短大食物栄養科

育ドル娘のアイデアが季節感たっぷりのお弁当に！



四季弁当は7月~12月、夏、秋、冬と3種類を販売。育ドル娘もPR活動に力を注ぎます



栄養士の卵として、歌って踊って食育普及に努める短大食物栄養科の学生「育ドル娘」。平成26年に食品製造の(株)めん食(熊本市)との共同開発で考案した「九州一周の巻き」が好評だったことから、第2弾として再びコラボ企画がスタート！新企画は平成27年11月から取り組んできた「四季弁当」。2年生全員で提案し、6代目育ドル娘がアレンジを加えました。減塩で低カロリーと栄養バランスの良さはもちろん、九州の郷土料理を取り入れて季節感も考えるなど、味、見た目、発想にもこだわ

トキハインダストリー賞

「うま塩簡単タコライス」
食物栄養学科1年
大塚 弓月
(大分県立大分西高校出身)

「いさきのトマトクリームパツツア〜グラタン仕立て〜」
食物栄養学科3年
穴見 由貴
(大分県立国東高校出身)

めいじん賞



べ3割カットできている理想的なうま塩レシピだと評価されました。「うま塩ひじき」は今後県の各種キャンペーンでPRされるほか、各賞に選ばれたメニューも店舗での提供に向けて開発を進めていく予定です。学生たちのアイデアが社会に出て、地域に広く知られるきっかけとなりました。

こうした取り組みは、学生が企業や地域の人々と交流しながら実践的な学びができる貴重な機会であり、キャンパス内の座学だけでは得られないものです。また学生のあこがれである商品開発に携わることができ、貴重な機会でもあります。別府大学の食物栄養学科は、大分県唯一の管理栄養士養成機関として、これからも県内の食の拠点としての役割を担っていきます。

グランプリ



「うま塩ひじき」
食物栄養学科3年
松岡 詩織
(大分県立明光高校出身)

普段から食べているおかずをおいしく減塩しようと和食でチャレンジしました。まさか優勝できると思っていなかったのうれしいです。大分県から「うま塩ひじき」を広めたいです。

食物栄養学科3年
橋本 弥希
(大分県立大分西高校出身)

「大分県民の・大分県民のための」メニュー開発をしたいと思い、別府大学のみなさんにご協力いただきました。斬新なアイデアにより、素晴らしいメニューを生み出していただきました！

カゴメ(株)九州支店
主任・大分県エリアマーケティング担当
北裏 達郎さん



自分たちの提案が商品化され、お客様に購入していただいたことが嬉しかったです。今回の成果を通じて、育ドル娘の活動をもっと広げていきたいです。

短期大学部 食物栄養科2年
今村 菜乃花
(大分県楊志館高校出身)

カロリーや塩分が細かく計算され、彩りのよいお弁当で、私たちの要望に応えてくれました！先輩たちのがんばりを嬉しく思います。

(株)めん食
商品開発課 栄養士
武藤 美緒さん



元・育ドル娘!!

り満載の商品を完成させました。四季弁当は九州の1200店舗のスーパーで販売され、県内外の店舗やイベントで育ドル娘が出動し、お弁当のPRも行いました。

また、のり巻きの取り組みがきっかけで、めん食に育ドルOGが栄養士として就職しています。企業と商品づくりを行ったり、店頭販売でお客様と触れ合ったり、実践的な学びを通じて栄養士としてのスキルを高めています。



大分ならではの“香り”を活用した商品開発を目指します

7月12日、別府大学と大分県農業農村振興公社は、香り文化の振興を進めていくため、「ハーブ六次産業化プロジェクト協定」を結びました。大分県には、カボスや七島イ、サフランなど、香りに特徴のある農産物が多くあります。今後、大分農業文化公園と共同して、オリジナル商品の開発に取り組んでいきます。

REPORT 7

発酵食品学科
カボス・サフラン！
大分県の
“香り文化”を発信

杵築市大田小野の比枝神社の秋の大祭に、毎年、初等教育科の研究会「マープル」と国際経営学科の国際経営ゼミ（中道ゼミ）の学生が参加しています。地域の方と餅つきをしたり、

神輿を担いだりと、祭りに欠かせない存在になっています。都市部では地域のつながりが希薄になる中、祭りを通して、地域の連帯の大切さを理解する貴重な経験になっています。

REPORT 6

国際経営学科
短大初等教育科
秋まつりで、地域の
連帯の大切さを実感



中道ゼミでは、短大食物栄養科と連携してクッキーを作り、販売するというプチ起業を体験



人形劇研究会「マープル」の学生も、神輿を担いだりそばを仕込んだりと積極的に参加



辻河原石風呂（県指定文化財）を調査

近年、地域の生活や風土に根差した景観の重要性が見直されています。史学・文化財学科では、ジオパークに認定されている豊後大野市の文化的景観について平成28年夏から秋にかけて現地調査を進めています。市内には石橋や磨崖仏など、石造文化が数多くあります。その文化と人々の暮らしが作り出した景観の中から、地域の宝を発掘し、その保護の意義を考えていきます。

REPORT 4

史学・文化財学科
風土が生み出す
文化的景観を調査

REPORT 5

食物栄養学科
アイデア勝負の
「湯けむり健康教室」



学生の自由な発想で楽しい教室に。時には調理実習にも挑戦します

平成16年から、本学健康センターと連携して健康体力づくり事業「湯けむり健康教室」を行っています。地域の方の健康維持・増進をはかる地域貢献のみならず、学生にとっては貴重な栄養・運動指導実習の実践の場となっています。受講者の方に、わかりやすく伝えるため、流行の話題を取り入れるなど、アイデア満載で楽しい教室づくりに取り組んでいます。



学生たちのアイデア満載の企画に、子どもたちも大喜び

REPORT 8

保育科
公民館のイベントを
プロデュース

大分市の植田公民館と保育科が共催し、7月9日に「わんぱく子どもまつり」を開催しました。1年生の「基礎演習」の中で、遊びや体験の企画を考え、制作、準備に取り組みました。毎年恒例の行事として好評でしたが、今年度が最後。公民館との連携モデルとして、この取り組みを今後に生かしていきたいと考えています。

熊本・大分地震から

復興に向けて

今年4月に起きた熊本・大分地震。16日には別府市も震源になり本学の周辺でもさまざまな被害が生じました。この震災からの復興に向けて学生たちが活動を行っています。

人間関係学科

上人小学校の
児童と二緒に
「防災マップ」を作成



子どもたちと、学校周辺の被害状況や避難場所をチェック

別府市内でも被害の大きかった地区にある上人小学校では、5月27日に5年生が防災マップづくりを行いました。今回の地震を振り返ることで、子どもたちの心の整理につなげ、地域防災に役立てるのが狙いです。小学校と

地域と大学が一緒になって取り組みました。大学からは長尾秀吉准教授と「生涯学習論」を受講している学生ら20名が参加しました。子どもたちと学生が共に、地域の状況に目を向けることで、コミュニケーションが高まりました。

史学・文化財学科
熊本市博物館で
被災した
文化財を救済



一つひとつの土器に想いを込め、文化財を後世に伝える役割を実感

熊本城をはじめ、熊本県内では多くの文化財が被害を受けました。熊本市博物館では、プレハブ建屋内で保管していた考古遺物が被災。史学・文化財学科の学生たちは夏休み

を利用し、遺物の整理のボランティアを行いました。棚が倒れコンテナ容器から飛び出した土器を整理し、再度棚に配架。地域の宝を守るための大切な学びました。

地域連携推進センター

地方で活躍し、地域貢献ができる人材を育てる



地域連携推進センター長
飯沼 賢司



別府大学の学生は、大分県内での就職率が高く、4年制で60%強、短大が90%強という数字を誇っています。大学としても地域を基盤とした教育をさらに豊かで生産的なものにするため、これまで個別に連携してきた企業や地域、自治体と連携協定を結んでいます。また国が求めている地方創生という目的も踏まえ、平成26年に「地域連携推進センター」を発足させました。

別府大学ではこれまでもさまざまな地域連携の取り組みを行ってきましたが、今後はさらにセンターを核とした企画型、体験型、ボランティア型などの連携活動はもちろん、インターンシップを通じた企業体験、企業の方を招いての講義など、大学の枠を超えた学びを広げていきます。

現代はコミュニケーションの機会が少なく人間関係を築きにくい時代ですが、学生たちが地域の中で育つことで地域を愛し活躍する人材となり、地域を発展させる力となってくれることを期待しています。



大学時代に多くの経験を

銀行が求める人材像は「多様性」

(株)大分銀行 取締役 会長
姫野 昌治氏

「チャレンジ精神をもって何事にも取り組み、自分が将来、何を目指したいのか見極めてほしいですね」。

大分銀行の姫野昌治会長は、「別府大学の学生に期待すること」について、若い時は好奇心を旺盛に持ち、安定志向に入らないでほしいと、強調されました。

大学時代に約20ものアルバイトをこなし、「その経験が今役立っています」と姫野会長。「学生の間にいろいろなことを経験しながら、将来の方向を探してほしいですね」と別大生にエールを送ってくださいました。

別府大学に、これからどんなことを期待しますか？

自治体・企業の代表者にインタビュー！

カラを破って思い切りチャレンジを

別府と一生、縁を結び続けてほしい

別府市長
長野 恭紘氏

別府市内には別府大学を含め5つの大学や大学関連施設があり、約8,000人の学生が学んでいます。長野恭紘別府市長は、市内にある大学の知見をまちづくりに生かすことを目的とした「別府・Bリーグ構想」を推進しています。

「地元を離れて来ている学生にとっては、別府は第二のふるさと。別府市と生涯を通してつながりを持ってもらいたいです。そのために、学生たちの夢や希望を共有し、働きたいと思える仕事を起業も含め創出する。そんな別



別府大学と大分銀行は昨年9月、地域活性化を協同で推し進めるための連携協定を結びました。今年度後期には国際経営学科で大分銀行と連携した「銀行論」講義プログラムが実現。今後は、地域を支える人材の育成や、文化、歴史、食、福祉などを生かした地域活性化に共同して取り組んでいきます。

姫野会長は「将来に対して強いビジョンがあれば、地域の中小企業の方が活躍する場があると思います」と語り、「大分にも独創性を持った元気な企業が多数あります」と、学生が大分の企業で活躍することに期待を寄せられています。また姫



2015年9月9日に、大分銀行と提携協定を締結



「温泉まつり」に学生が参加し、祭りを盛り上げました

府の変革を学生と共にやっていきたいのです。その一つに、今、日本を代表するセレクトショップであるBEAMSとのコラボレーションが進行中です」と、別府・Bリーグ構想への思いを語られました。「若いうちはカラを破って思い切りチャレンジしてもらいたいですね」と、学生たちの可能性に期待を寄せています。また、全国から学生が別府に行きたい！と思うような魅力的な街になるよう、別府のブランド力のアップに力を入れていくそうです。

日本版CCRの候補地として名前が挙がった別府市ですが、長野市長は「健康寿命を延ばすためには、運動だけでなく、知的な刺激も必要。生涯学習の一環として、大学に特別講座のような形で通うなど、



公開講座「トップマネジメント講話」にも登壇いただきました

野会長は、銀行が求める人材像については「多様性を持った人」としています。「オリジナリティを持って、その強みを発揮できる人材が必要とされるでしょう」と話されました。

「大分銀行でも、しっかりと基本を備えながらも、柔軟性を持った多種多様な人材が集まってくるような銀行にしたいです。今後は、芸術系の学生の採用も考えたいです」と、将来の展望を語られました。

大分銀行は2015年に地域活性化の拠点として、大分駅前宗麟館を開館し、地域に密着したイベントなどを展開しています。皆さんもぜひ、宗麟館に足を運んで大分県の良さを発見してみてください。

地域と大学が結びつくのは理想的な姿だと思います」と大学の果たす役割に触れました。さらに、別府市の子どもたちが、英語や中国語、韓国語で、コミュニケーションが取れるようにするなど、子どもたちの教育にも大学の強みを生かしてほしいと話されました。

「別府市の活性化のために、歴史・伝統・文化産業を掘り起こし、磨いていきたいと考えています。別府大学には、番長く協力いただいているので、今後はもっと顔の見えるお付き合いをして、相互の連携を強化していきたいですね」と、本学への期待を語られました。



別府大学オリジナル本格焼酎「夢香米」の完成を報告

04 別府市の横穴墓群を 国指定文化財へ！

史学・文化財
学科

浜脇古墳群の発掘調査

平成20年から、別府大学が発掘調査を始めた「鷹塚古墳」は、大分県最大の石室をもつ畿内的な方墳であることが判明し、現在、国指定史跡にすべく、別府市が意見具申の最中です。

畿内政権は、何故、飛鳥時代に別府を重要視するようになったのか。この謎を解くために、同時代の浜脇の横穴墓群に注目しました。浜脇横穴墓群は、平原支群と芝尾支群、金比羅支群に分けられますが、平成27・28年度に平原・芝尾支群の調査を実施。今年度の調査で、合計15基の横穴墓



埋蔵文化財調査実習I実習風景

03 ストレス耐性力の 研究で奨励賞受賞

人間関係
学科

「日本ストレスマネジメント学会
第15回学術大会」で奨励賞受賞

稲見悠里さん(平成26年度人間関係学科卒業、大学院臨床心理学専攻在学中)が、「日本ストレスマネジメント学会第15回学術大会」において、奨励賞を受賞しました。発表内容は、「ハーディネス向上効果プログラムの開発及び構成3要素の相互連携作用の検証」と題して、学生を対象にハーディネス(ストレスへの耐性力)の向上を目的とした介入実践研究の成果をまとめました。稲見さんは、「今は、修士論文を書き上げること日々一生懸命取り組んでいるところです。今回の受賞



受賞の喜びを語る稲見さん(中央)

は、矢島潤平先生をはじめとして別府大学の先生方のご指導のおかげと感謝しています。これを励みに更に邁進していきたいと思っています。」と喜びを語りました。

05 在学生・卒業生の協力で仕上がった 食物アレルギーレシピ集が完成

食物栄養
学科

「みんなで一緒に楽しくおいしく！
食物アレルギーの子どものためのレシピ集」

食物栄養学科高松研究室では、環境省の関連団体である独立行政法人環境再生保全機構の事業を受けて「みんなで一緒に楽しくおいしく！食物アレルギーの子どものためのレシピ集」の編集を行い、本年4月に発刊しました。

成長期の子どもの食物アレルギーは増加傾向にあり、適切な対応が求められています。この本は知識の普及を目的として、保護者の方や保育教育関係者、医療関係者の方々へ向けて35万部が配布されるほか、機構ホーム



卒業生の協力で完成

ページや料理サイトのクックパッドで順次公開されます。

料理撮影には、東京在住の食物栄養学科卒業生である嶋村生子さん(平成22年卒)が料理研究家のアシスタントで参加し、在学生とのコラボが実現しました。

06 小学生たちに理科の おもしろさを

発酵食品
学科

道の駅みえで「出前実験」を実施

8月21日に、道の駅みえ(豊後大野市)で開催された小学生対象の「化学の実験 理科の自由研究」。「フンアルコールあまざけを作る」「酢卵を作る」「持てる水を作る」の3つのテーマで、発酵食品学科の藤原秀彦准教授が出前実験を行いました。

「あまざけ」は夏にぴったりの発酵ドリンク。自宅でも簡単に作れることに小学生よりも保護者の方がびっくりしていました。また、「酢卵」はお酢に卵を入れたらすぐに泡が。「何の泡!」と小学生は大興奮でした。最後に



理科の“ふしぎ”を体験

「持てる水」では、かき氷シロップで味付けをし、食べて不思議な食感にびっくり。

参加してくれた小学生や保護者の皆さんには、身近な「理科」に触れてもらえたのではないかと思います。

01 4年間の集大成に挑む 先輩たちのドキュメンタリー

国際言語・文化
学科

「2017年卒業制作展」応援プロジェクト



カメラクルーは汗びっしょり



オペレーターの練習



オープンキャンパスで撮影

本年度は4月の入学式後、熊本県益城町を震源とする地震から始まり、熊本県のみならず大分県内各地でも大きな被害がありました。学生たちは不安な避難生活を余儀なくされ、心に深い傷を負いました。そんな中、国際言語・文化学科の4年生は卒業制作に励んでいます。その4年生の製作風景を追うPV(プロモーションビデオ)を3年生以下の有志によって製作することとなりました。今回は業務用カメラ、マイクなどを使用する為に夏

休み前から準備を始めました。機材に慣れるため、オープンキャンパスなどでも撮影の練習を行い、メディアセンターの音声収録スタジオなども使用しながら、今後本格的な撮影・編集に入っていきます。使用曲はBank Bandの「to u」。学生たちの頑張りが、きっと別府大学の学生のみならず、熊本・大分に勇気を与えてくれることを信じています。出来上がったPVは来年のOPAMでの卒業制作展で上映の予定です。

02 猛暑を吹き飛ばす「日田実習」

国際経営
学科

2、3年生対象「観光・地域経営実習」



留学生も山鉾を初体験



日田の町を練り歩く山鉾

国際経営学科の2、3年生は7月23日、「観光・地域経営実習」の授業の一環として日田市天瀬公民館との交流研修事業を行い、日田祇園祭の山鉾の綱引きや、天瀬町のバイオマス発電施設「グリーン発電大分」の見学を実施しました。

学生たちはまず、グリーン発電大分で木質バイオマス発電について説明を受け、日田市を中心に余っている間伐材を有効活用して電力を起こす地産地消のシステムについて学習しました。さらに午後は、日田祇園

祭に参加し、川原町祇園山鉾の綱を引きました。この日は、気温が38℃まで上昇する猛暑日。山鉾の綱引きでは沿道の市民の方々から給水を受けるなど、地域社会を肌身で感じる貴重な体験ができました。



「グリーン発電大分」の見学

07

短期大学部
初等教育科・専攻科

平成29年4月より 初等教育科が 新しくなります!!

新・初等教育科設置のお知らせ



アクティブラーニングの充実へ



研究会活動も盛んです

平成27年4月からの「子ども・子育て支援新制度」の実施や保育所待機児童の増加など、子どもを巡る状況は、今、急速に変化しています。この状況の変化に対応するために、小学校、幼稚園や保育所の先生には、高度な専門性が必要とされています。このために、初等教育科が新しくなります!!

では、初等教育科の何が新しくなるのでしょうか。

まず、初等教育科の入学定員をこれまでの150名から200名に増員します。

次に、初等教育科で取得できる免許・資格は、希望により「小学校免許」・「幼稚園免許」・「保育士資格」の3つが同時に取得できるようになります。もちろん、今までと同じように「幼稚園免許」と「保育士資格」、また「小学校免許」と「幼稚園免許」といった2つの免許・資格の取得を目指すこともできます。

そして、新しい初等教育科では、高度な専門性をもつ小学校、幼稚園や保育所の先生を養成するために、アクティブラーニングに対応した授業や施設の充実を行っていきます。さらに専門性を高めるための専攻科(福祉専攻・初等教育専攻)も一層の充実を図っていきます!

08

短期大学部
食物栄養科

別府の温泉を有効活用! 温泉水を介護食に!

「別府の温泉水でつくるやさらか介護食」を発行

本科の海陸留美教授と東保美香准教授は、別府の温泉水(飲用水)の有効活用を目的に、調理への利用について研究を進めてきました。この研究では、炭酸水素塩泉は大根の軟化に有効で、味や見た目を変化させないことから、根菜類の煮物料理に適している結果を得ることができました。

今回、この研究結果をもとに、学生たちと一緒に高齢者向けの介護食に応用したレシピ開発を行い、マザー大根や牛肉の八幡巻き、れんこん団子のおしるこなど24品を冊子にまとめました。海



別府温泉水を調理に活用

09 オリジナルのオペレッタで “総合表現”を学ぶ

短期大学部
保育科
平成28年度「オペレッタ発表会」

7月6日に、平成28年度保育科「オペレッタ発表会」を開催しました。この発表会では、保育科2年生58名が4つのグループに分かれ、「オズのまほうつかい」「さるかにがっせん」「ももたろう」「あかぎん」を演じました。約3カ月かけて「表現活動の研究」の授業内で脚本や音楽、衣装など全て自分たちの手作りで作成しました。授業時間外にも毎日練習してきた成果を当日は南大分保育園の園児さん約80名の皆さんを前に、堂々と演じました。園児の皆さんは手



子どもたちに笑顔届けたいと熱演!

研究室訪問 学びのトビラ

研究室訪問

Vol.05

別府大学の学びの最先端をレポートします。



プロフィール

1978年山形県生まれ。2001年西南学院大学卒業。九州大学大学院人間環境学府修士課程へ進学。2003年同大学院博士後期課程に進学。進捗するも研究や進路に悩む。7年をかけて2011年に「インド都市社会におけるストリートチルドレンの「自己決定」に関する研究—子どもとNGOの関係性を中心に—」が完成し、博士(教育学)取得。その間、複数の大学や専門学校にて非常勤講師をする。九州大学大学院人間環境学府・九州大学教育学部助教を経て別府大学へ。



書棚に並ぶインド映画コレクション。教材にしたり、研究の合間の癒しになったり

教職課程 講師

針塚 瑞樹

Mizuki Harizuka

異文化を通して考えるヒトの成長

たのくるしい教育

私が大学で担当しているのはほとんどが教職課程を履修している学生のみなさんの授業です。私自身が教育について授業をしているのですが、教育とはとても難しいことだと実感する毎日です。学生のみなさんは何気なく授業を聴いている(ふりをしている)と思います。が、その反応を教員は敏感に感じとっているのです。「今日も下を向いている人が多かったな。面白くなかったのかな」とか、「今日はだいぶ考えてくれた」とか、「今日の発言があった!例が良かったのか」と振り返ります。授業中に話を聞いているように見えても、内容をあまり考えていない人もいます。興味なさそうにしていても実は話を聞いていたりもする。最近、インドで調査をしていて、ストリートに暮らす子どもたちのケアをする施設の職員が「ひとりの子どもの頭の中は海よりも広い」と言っていました。が、その通りだなと思います。

教育の多様性、文化の多様性

先ほどインドの例を出しましたが、私は人が「大人」になっていくということについて、主にインド都市社会の子ども若者を対象に研究をしています。インドとの最初の出会いは大学生の時に友達と出かけた2週間の旅行です。街中にいるだけで人々の生活のあらゆる側面が見えることに興奮するとても

に、ほとんどの感覚もおぼえました。大学3年生のときに就職活動のために自己分析をしたのですが、そのときに自分がしたいことはインドの文化について研究することなのでは、と思うようになりました。印象的だったのがストリートで働いている子どもたちでしたので、子どもの労働について教育の観点から研究をはじめました。現在はストリートで暮らした経験のある子どもたちが児童養護施設の支援を受けた後、仕事に就き、家族を作り「大人になっていく」プロセスについて研究しています。時代や、地域によっても「大人になること」のあり様は異なります。普段の暮らしのなかでは、自分が社会のなかで評価されていないように感じたときに、悩んだり、苦しんだりしてしましますが、他の文化に触れると、そうした評価がたぐさんあるパターンの中の一つに過ぎないと気が付かされることもあります。

フィールドワーカー人との関わり

私の専門は教育人類学です。教育を人の成長を目指してなされる行為とすると、教育人類学とは人の成長とは何かを探究することを通して、人類とは何かということ明らかにする学問です。「大人になること」の研究を通じて、人の成長についての多様な考え方や実践を知り、人についての理解を深めたいと思っています。人類学の主な研究の方法はフィールドワークです。その基本は研究の対象である人々と時間と空間を共にし、信頼関係を築くことです。この点は、教育にも重なると思います。インタビューをする場合に、相手の発言にどういった意味があるのかを理解するためには、言葉をそのままとらえるだけでは不十分な場合が少なくありません。普段のその人がどんな生活をし、どんな経験をし、どんな考えの持ち主であるのかを知った上で発言を理解すると、何も知らない相手の発言を理解するのでは、そこから読み取れる情報の質は異なります。フィールドワークの基本は、教育における教育者と被教育者(教育を受ける者)の関係にも通じていると思います。

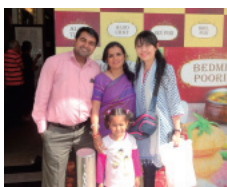
～ Other sides of Mizuki Harizuka ～



即席のおつまみを作りながら別府の花火を観たことが今年の夏の思い出です!きれいな柄のランチョナマドで、料理の味も数割増しに



インド調査中の楽しみは、家庭料理!これは食のインド風な「パコラ」。朝食やおやつとして食べます



インドでお世話になっている家族。生活の様子を見せてもらい、おしゃべりすることで、インドの教育事情や文化について教えてもらっています

「食」を通じて、明日に活力を！

県内の大学を卒業後、就職をした森田さん。
明日の活力になっていたのは、近所の和食店のお料理でした。

改めて食べることの大切さ、楽しさを実感し
短大食物栄養科で「食」の道を目指すチャレンジがはじまりました。

この学科に入学した理由は？

大分県内の大学を卒業し、就職をしていた時に通っていた和食店との出会いがきっかけです。料理がすごくおいしくて！仕事のスランプの時でも、ここで食事をすると明日もがんばろう、という気持ちが沸いてきました。おいしい料理は、人を元気にすることに感動しましたね。いつも元気をもらっていましたが、お店のご主人が急逝してしまいました。それから、自分の将来について考えるようになり、以前から興味があった食に関わる仕事をしたいと強く思い、仕事を辞めて「食」の道に進むことを決意しました。

半年過ぎましたが、短大での勉強はどうですか？

思い切ってチャレンジしてよかった！毎日、新しいことを学ぶのが楽しいです。先生との距離も近くて、すごく指導が丁寧です。高校の調理科出身の同級生も多く、高い調理技術を持っているので刺激になりますね。

一番好きな講義は？

衛藤大青先生の「食品学」です。食品に含まれる栄養成分や、食品と人間との関わりなどを学びます。すごく興味があるのですが、昼食後の3限目にあるので、毎回眠気との闘いです（笑）

イベントのキャッチフレーズが採用されたんですね。

食物栄養科では、毎年授業の一環で、「おおいたみのリフェスタ」のキャッチフレーズに応募をしています。大分の農林水産物が一堂に集まるイベントなのですが、今回、私が提案した「しんけん うまいけん おおいたけん」が採用されました。自分のコピーがポスターやチラシに使われるそうなので、楽しみです。

将来の夢は？

栄養士や調理士だけでなく、さまざまな職種で「食」に関わりがあると思います。短大で学んだことを生かして、食べることの大切さを伝えていけるようになります。そして、いつか私も「食」で人を元気にできたらと思っています。卒後教育※も活用して、管理栄養士も目指したいです。

※食物栄養科では、卒後教育の一環として卒業生および大分県で働く栄養士を対象に、「管理栄養士国家試験のための支援講座」を開催しています。本学の食物栄養科で「栄養士」の資格を取得した後、さらに指定機関（病院など）で3年間の実務経験を積むと、「管理栄養士」の受験資格を取得することができます。



趣味は旅行やカフェ巡り。京都にて



学内のおにぎりコンテストで赤ワインを使ったピザおにぎりを提案

醤油造りで未来を切り拓く！

バックパッカーでオーストラリアの一人旅や
沖縄でボランティア…さまざまな経験から
見つけたのは、家業の醤油醸造元を継ぐこと。
人に、環境にいい醤油造りを目指して勉強中です。

ご実家が醤油醸造所なのですね。

実家は、福岡県飯塚市で、祖父の代から醤油の製造・販売を行っています。子どもの頃から麴造りを手伝っていましたが、重労働だったので、将来はスーツを着て仕事をしたいと思っていました。父親も、進路は自由にさせてくれたので、地元の大学に進学して、醤油屋とは関係のない観光産業学を専攻しました。大学3年の時、自分の将来についてゆっくり考える時間がほしくて、大学を休学し、バックパッカーでオーストラリアを巡りました。この旅は、自分の心と向き合う貴重な経験になりました。

家業を継ごうと思ったきっかけは？

大学卒業後は、就職せずに沖縄へ1年間ボランティアに行きました。自然の中で必死に生きているうちに、自分の道を自分で切り拓きたい！という思いが湧き立ってきました。そして、自然農法や自然食を知り、微生物の働きや発酵食品の素晴らしさに出会い、実家の醤油屋の価値の大きさに初めて気づいたのです。

大学で学び直そうと思ったのはなぜですか？

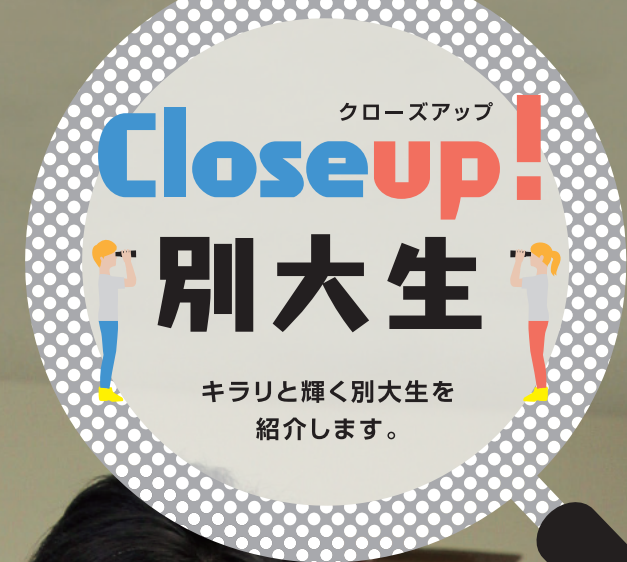
5年ぐらい実家で醤油造りに取り組んでいたのですが、製法や設備も需要も時代によって変わっていきます。家業を受け継ぐだけでは守っていけない、新しいものを作り出すには経験や勘だけではなく科学的に物事を理解することが近道だと感じ、大学で専門的に学ぶことにしました。

発酵食品学科での勉強はどうですか？

理系の勉強に付いていくことに必死でしたが、先生方の手厚い指導や同級生や家族の支えのおかげで徐々に身に付いてきました。卒業までに醤油造りに活かせる知識を、深く身に付けたいと思います。

今後の目標は？

卒業後は家業を継ぎ、それを基盤に地域活性化や地球環境保全などにも取り組みたいと思っています。この発酵食品学科で学んだ微生物たちは、厳しい環境でも形質転換を起こし、環境に適応し、環境を整えるとまた元の姿に戻ったりします。私も自分の周りの環境や状況を誰かのせいにするのではなく、自分の力で未来を切り拓いて行きたいと思っています。



今年の春に仕込んだ桜の花の酵素ドリンク。甘酸っぱい味に仕上がったそう





別府大学吹奏楽団



歴代のトロフィーを練習の励みに

学生からのひびき

吹奏楽を通じて出会った仲間は人生の財産です！笑いの絶えない団員と、個性を尊重し合いながら作り上げていく音楽はとても楽しいです！音楽を通じて仲間と心が通じ合った瞬間、また観客のみなさんに私たちの思いが伝わった時に大きな喜びを感じます。この感動と一緒に味わってみませんか？



吹奏楽団団長
文学部 人間関係学科4年
中山 瑞稀
(大分県立大分商業高校出身)

昨年からの主な活動は、「第40回大

別府大学の卒業式・入学式での「別府大学学歌」の演奏を覚えていきますか。この演奏をしているのが別府大学吹奏楽団です。吹奏楽団は、今年も「大分県吹奏楽コンクール」で金賞を受賞し、5年連続九州大会に出場するほど実力のあるサークルです。

部員全員で音楽を共有しあい、観客の前で楽曲を披露し、喜んでいただくこと。そのために、1曲が出来上がるまでには、楽譜をもらい、譜読みをし、個人練習・パート練習、そして合奏。約1ヵ月かけて演奏を仕上げていきます。

観客に感動と音楽の楽しさを

分県アンサンブルコンテスト」においてクラリネット四重奏編成で県代表として九州大会出場。「第9回別府大学定期演奏会」ではOB・OGと一緒に幅広い方々に音楽を楽しんでいただきました。その他、吹奏楽フェスティバルや九大病院での院内コンサートなど、依頼による演奏も行っています。心に響く演奏を——演奏中に手拍子が湧き起こり観客との一体感や、二元气が出たよ」「感激して涙が出たよ」「上手くなったな」との声に励まされ、さらに技術を高めていくことでしよう。

サークル紹介

学部、学科を超えた絆は、人生の宝物

学生からのひびき

私たちは毎週月曜から金曜の授業が入っていない時間に図書館でのボランティア活動を行っています。サークルに参加しているメンバーは司書や司書教諭を目指し切磋琢磨しながら自分の夢に向かい努力しています。興味を持ったらぜひ気軽に話しかけてください。



FOBU 部長
文学部 国際言語・文化学科3年
羽田野 結太
(大分県立三重総合高校出身)



個性あふれるオリジナル名札

別府大学附属図書館で司書ボランティア

Friends of Beppu University Libraryを略したFOBUは、1994年に発足しました。将来、司書を目指す人を中心に活動しています。

FOBUは、附属図書館で返却された図書や雑誌の配架、書架整理など、図書館の職員の指示を受けて作業を行うボランティア組織です。図書館内を隅々まで承知済みの部員が挙げる附属図書館のナイスポイントは…

①マンガコーナーが充実 ②積層にある古い本やコアな本 ③3階のワロルームは2人以上で勉強する際に便利、など。ぜひ、皆さんも大いに図書館を活用してくださいね。

今年4月の地震で書棚が倒れ、本が散乱しましたが、部員が図書館職

員と一緒に根気よく作業を進め図書館が早期に再開できたことを知っていましたか。

さて、部員は「本が好き」はもちろんですが、高校時代に辛いときや嫌なことがあって図書館に逃げ込んだ時、司書の人の声をかけてもらったり、ある時はそっと見守ってくれたり…「本だけを見るのではなく、心に寄り添ってくれたから。」と、司書への憧れを抱いています。最後に、FOBUは、楽しくみんなで絆を深めながら司書を目指す人には心強いサークルです。14名の名札を下げた部員が、毎日手分けして、作業をしています。図書館で分らないことや入部希望があれば声を掛けてください。

フォーブル FOBU



テーマ

ちょっと、聞かせて♪別大生に突撃インタビュー

ストレス解消法

勉強にサークル、バイト、恋愛、将来のことなど、大学時代は悩みが尽きないもの。今回は、別大生のストレス解消法を聞いてみました。もやもやを吹き飛ばして、スッキリしよう！

もやもやしている時は、無意識に、絵を描いています

文学部
国際言語・文化学科
3年 中島 絵里加
(大分県立中津北高校出身)

友達と一緒に食事に行ったり、ゲームをすること！

短期大学部
食物栄養科
2年 緒方 温子
(大分県立別府青山高校出身)

友達としゃべる。ファミレスで3～4時間話したことも♪

文学部
国際言語・文化学科
4年 麗 鈺曠
(中国 江蘇省鎮江市実験高級中学出身)

スマホでお笑いの動画を見る。笑ってストレス解消！

友達や親に、しゃべりまくる！

文学部
国際言語・文化学科
2年 田中 優志
(佐賀県立神埼高校出身)

短期大学部
初等教育科
2年 牧 友梨香
(大分県 福徳学院高校出身)

相談は予約制です

もし、一人で悩んでいたら…

大学生活や友人関係の悩みなどで行き詰ったりした時は、一人で悩まず「学生相談室」に相談してください。専門のカウンセラーが、みなさんの悩みに耳を傾け、一緒になって最良の解決を目指します。

別府キャンパス
健康相談室(保健室)
または、学生課窓口で受付

大分キャンパス
事務室窓口で受付



山村 充乃さん

短期大学部 専攻科初等教育専攻 平成20年度修了
(大分県立大分南高校出身)

津久見市立津久見小学校教諭
判田女子ジュニアソフトボールクラブ 監督



グラウンドでも教室でも
大切にしていることは“仲間づくり”



一つ一つの動きを丁寧に指導

ビシッとボール投げてよ。苦しい時ほど、声を出して！
大分市高江のグラウンドに響くのは、「判田女子ジュニアソフトボールクラブ」で監督を務める山村充乃さんの声です。山村さんは現在津久見市内の小学校教諭として勤務しながら、週末はこのクラブの指導をしています。中学・高校とソフトボールに熱中し、短大1年生の時に、中学時代のソフトボール部のコーチから、ジュニアクラブを作るから手伝ってほしいと依頼され、以来クラブの指導を続けて10年になるそうです。
山村さんは、小学校教諭を目指して初等教育科へ。小学校5、6年の時の担任の先生が、学校行事を通して、友達と一緒にがんばる楽しさを教えてくれたと言います。その先生の影響から、教室でもグラウンドでも、子どもたちに伝えたいことは、社会に出たときに自分の力で生きていけるようになること。そして、人の中で



練習中は厳しいけれど、休憩の合間には笑顔がこぼれる山村さん

生きていけるようになること。そのためには、自分の想いを伝え、また人の想いを受け止めることができ、そして周りの様子が気がつくようになってもらいたいと言います。
山村さんは、昨年、9回目の採用試験でようやく本採用となりました。「この9年はとても苦しかったです。しかし、臨時採用の間、環境に恵まれいい勉強をさせてもらえました」と振り返ります。「近年、初等教育科出身の教員が増えてきたのがすごくうれしいです」と、同窓生の活躍を誇らしく感じていました。「退職するまで担任を持ちたい」と、夢を語る山村さん。子どもたちが成長する姿に、教員としてのやりがいを感じる日々を過ごしています。

森山 凌さん

国際経営学部 国際経営学科 平成26年度卒業
(大分県立大分鶴崎高校出身)

地熱ワールド工業株式会社



地熱に情熱、若き「温泉マン」
日本一のおんせん県で技術を学び温泉を守る



新しく開発した発電技術を、安倍総理が視察

毎日どれほど多くの汗をかいているのかわかりません。でも現場で体を動かすのは本当に楽しい。やりがいのある仕事です！
平成27年3月に国際経営学科を卒業し、温泉の開発・給湯などを手掛ける「地熱ワールド工業」(本社・別府市朝日ヶ丘町)に就職した森山凌さん。別府ならではの地熱関連という地域に根ざした仕事に情熱を燃やす毎日です。
森山さんは主に、家庭などにある給湯システムの故障の修理を担当しています。「職場の先輩はみな優しく接してくれますが、危険が伴う現場になると厳しく指導を受けます」と職業人としての厳し



小島社長からの信頼も厚い森山さん

い表情ものぞかせます。
そんな現場での楽しみは、お客さんとの会話だそうです。「修理した後の喜んでくれる笑顔を見ることがやりがいを感じます」と森山さんは嬉しそうに話してくれました。
将来の目標は、尊敬する先輩のように学んだ技術を広い視野で生かし、全国に発信していくこと。高い志を持って日々の仕事に取り組んでいます。「学生時代から体を動かすことと人と話すことが好きでした。チームワークも大事な現在の仕事が好き、とても充実しています」。
「学生時代から何事にも挑戦し、可能性を広げると、楽しいことが見つかる」と、在学生にエールを送ってくれました。

学園からのお知らせ

新18号館が12月に完成します！

新18号館は今までの18号館の機能を新たに発展させた建物です。1階には保健室とキャンパスショップ、文化会室、スポーツ振興会室、A T M、トイレが配置されます。女子トイレにはパウダールームもあります。2階以上は4号館と渡り廊下で連結され展望エレベーターからは中庭が望めます。2階にはギャラリーホールと別府大学の建学の精神と歴史を学べる展示ギャラリーが設けられます。展示ギャラリーでは、別府大学がどのような大学であるかを分かりやすく展示



北面イメージ



南面イメージ

学校法人別府大学 平成27年度事業報告

I 事業の概要

①就職支援の充実

本学主催の「就活準備フェア」の規模拡大や「公務員試験受験対策講座」等の継続的な開催で、就職内定率が大学では90%以上となり、短大ではほぼ100%を維持しています。

②地域貢献の充実

大学の知的財産を積極的に活用して地域に貢献する取組として、「トップマネジメント講話」など多くの公開講座を開催した。また、大分県及び県内全市町村と地域連携協定を締結し、3金融機関とも協力協定を締結して、地域の活性化や問題解決に取り組み、相互の発展を目指します。

③教育研究環境の整備充実

- ・1号館耐震改築工事の竣工（アクティブラーニング教室等の整備）
- ・18号館耐震改築工事の実施設計及び旧1号館南棟解体工事
- ・26号館（新体育館）及び9号館（プールの屋根等改修工事

II 財務の概要

・発酵食品学科へ「匂いかき付ガスクロ質量分析GC／MSシステム」の整備他

平成27年度は、収入規模が縮小するなかで、積極的な教育研究環境の整備を行いながらも、基本金組入前当年度収支差額の黒字を拡大させ、財務比率の改善を進めました。

また、学校法人会計基準の一部を改正する省令が平成25年4月に公布され、平成27年度から作成される決算書に適用されることになりました。

「事業活動収支計算書」は、企業会計でいう損益計算書に相当するものです。当該会計年度の経常的および臨時的収支を区分して、それらのバランスを把握できるようにし、これによって学校法人の経営状態が健全であるかどうかを判断することができま

平成27年度の経常収支差額は74百万円、特別収支差額は298百万円（主に耐震改築工事等の施設設備補助金収入）、基本金組入前当期収支差額は372百万円となり、前年度の109百万円に比べ、よい数値となりました。

基本金組入前当期収支差額から基本金組入額合計335百万円を差し引くと、当年度

事業活動収支計算書					
(単位:百万円)					
科目		予算	決算	差異	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,725	2,730	△5
		手数料	45	44	1
		寄付金	6	6	0
		経常費等補助金	855	839	16
		付随事業収入	417	432	△15
		雑収入	284	324	△40
		教育活動収入計	4,334	4,376	△42
	支出	人件費(a)	2,715	2,733	△18
		教育研究経費	1,258	1,213	46
		(内、減価償却額)	489	489	△0
		管理経費	439	406	32
		(内、減価償却額)	59	62	△3
		徴収不能額等	6	6	0
教育活動支出計	4,417	4,357	60		
教育活動収支差額	△84	19	△103		
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	51	45	7
		その他の教育活動外収入	8	11	△3
		教育外活動収入計	59	56	4
	支出	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育外活動支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	59	56	4		
経常収支差額	△24	74	△99		
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	342	326	16
		特別収入計	342	326	16
	支出	資産処分差額	162	28	134
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	162	28	134
		特別収支差額	180	298	△118
予備費	10		10		
基本金組入前当年度収支差額(b)	146	372	△226		
基本金組入額合計	△507	△335	△172		
当年度収支差額	△361	38	△398		
前年度繰越収支差額	172	172	0		
基本金取崩額	329	0	329		
翌年度繰越収支差額	141	210	△69		
(参考)					
事業活動収入計(c)		4,735	4,757	△22	
事業活動支出計		4,579	4,385	194	

(財務データ)		
事業活動収支差額比率(b)／(c)		7.8%
人件費比率(a)／(c)		57.4%

※表中の金額はいずれも百万円未満を機械的に端数処理しているため、合計等の数値が一致しない場合がある。



びじゅつかんへの旅 明星幼稚園
大分県立美術館（OPAM）との連携へ子どもたちのダイナミックな遊びの体験活動も2年目を迎えました。

がしたりする中、ピンポン玉が上から降ってくる「虹色シャワー」を浴び、楽しさはMAXに到達です。

高山辰雄ジュニア美術展で「優賞」に輝く！

第34回高山辰雄ジュニア美術展において、明星小学校1年生の宮崎浩郎君の作品、「かにさんと遊んだよ」が、「優賞」に輝きました。「優賞」は、各学年の推奨作品の中から選ばれた一点だけの最高の賞です。

寄せられ、その中の頂点に輝いた宮崎君の作品。教室で飼育していたかにさんを画面いっぱいに表現し、遊んだ時の喜びが伝わってくるかのようです。かにの甲羅や手足などの表現も見事です。

本美術展には、大分県内の9万点を超える児童作品が

宮崎君の作品は、大分合同新聞の紙面でも紹介されました。

明豊高校剣道部初出場V

6月4日から行われた第64回大分県高校総合体育大会において、明豊高校男子剣道部が初出場、初優勝を果たしました。

剣道部は今年4月に創部されたばかりで、わずか2ヵ月での快挙となりました。部員は1年生8名のみ。全員が寮生活を送りながら、別府大

学体育館で大学生と一緒に猛練習をして試合に臨みました。第1シードの大分高校を下し、決勝リーグも3戦全勝で見事に団体優勝を勝ち取りました。

インターハイでは予選リーグ敗退となりましたが、若さあふれるチームで、これからの活躍が楽しみです。

別府大学教育研究振興資金の募金について

別府大学教育研究振興資金にご寄付いただきました方々に厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を込めて、ここに「芳名」を掲載させていただきます。なお「芳名」の公表を希望されない方につきましては、掲載しておりません。

【平成27年度】									
大原 泰光様	幸野 真紀様	古賀 博行様	小塚 潔様	後藤 恭司様	坂本 勝美様	清水 昭博様	末松美代子様	高橋 賢明様	竹下 和敏様
堤 幸司様	常森 昭二様	手嶋新一郎様	馬場 泰子様	半田 智哉様	瀧田 潔様	豊東ムツ子様	星野 賢一様	森 真守様	吉見 和弥様
若杉 和秀様									
【平成28年度】									
穴井 朱夏様	塩見 浩一様	都甲 大祐様	鳥越 勉様	長野 美華様	廣田 貴光様	深田 徹様	松岡 修司様	宮本 和昭様	森 史樹様
佐々木元啓様									
吉野 順誠様									
(五十音順)									
(平成27年4月1日～平成28年3月31日まで)									
(平成28年4月1日～平成28年7月31日まで)									

剣道部小松悠香さん、県大会で優勝

5月15日に、別府市民体育館で開催された「第37回大分県女子剣道選手権大会」の個人戦において、本学剣道部の小松悠香さん(国際言語文化学科2年)が優勝しました。小松さんは、一般女子の選手も出場する中、堅実に勝ち進む快挙を遂げ、全国大会への出場権を勝ち取りました。今後の活躍に期待ください。



女子柔道部、全国大会で第3位に入賞

6月25日・26日に、日本武道館で開催された「平成28年度全日本学生柔道優勝大会」において、3位入賞を果たしました。また、優秀選手には佐藤静佳さん(発酵食品学科4年)が選ばれました。選手たちは、さらに上位を目指して練習に励んでいます。



なぎなた部、全国大会で第3位に入賞

8月7日に津市芸濃総合文化センターで開催された「第55回全日本学生なぎなた選手権大会」の団体の部において、本学なぎなた部が3位入賞を果たしました。主将の首藤愛実さん(人間関係学科4年)は、「優勝まであと一歩およばなかったのが残念。この悔しさを後輩に託したい」と、次の試合への意欲を語りました。



別府大学オリジナル本格焼酎「夢^{ゆめ}香米」好評販売中

本学の「夢米棚田チーム」が育てた「香り米」を使い、発酵食品学科の学生が研究・開発した、本格焼酎「夢^{ゆめ}香米」は、4月の発売以来、新聞やテレビで紹介され、県内外の方からお問い合わせが相次いでいます。さらに発展すべく、新しい焼酎の研究も進行中です。



お問い合わせ
大分香りの博物館
TEL 0977-27-7272

バドミントン部が人命救助で佐伯市警察署長より感謝状

佐伯市本匠の小半森林公園キャンプ場を訪れていたバドミントン部の学生たちが、川で溺れていた小学5年生の女児を救助しました。学生たちの勇気ある行動に対し、9月23日に佐伯市警察署長及び佐伯市消防本部消防長より、感謝状が贈呈されました。



卒業生の金丸智子さんが絵本を出版

本学短期大学部初等教育科の卒業生の金丸智子さん(日出町在住)が、絵本『大きな川と小さな穴』を出版しました。他者を認め合う気持ちの大切さを伝えるあたかなストーリーです。『こぐまとキツネのしっぽ』(2015年)に続く2作目。



お問い合わせ(有)ネキスト
TEL 097-503-1191

表紙の写真

① 大坪 愛実 短期大学部食物栄養科1年(大分県立臼杵高校出身)
② 皆見 俊貴 国際経営学部国際経営学科4年(大分県立明光高校出身)

大坪さんは「育ドル娘」、皆見さんは学内の研究会や学外のセミナーに参加しており、地域とつながりをもった活動を積極的に行っています!

Be-Newsへのご意見・ご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。

別府大学・別府大学短期大学部 広報室
〒874-8501 大分県別府市北石垣82
TEL: 0977-66-6262
E-mail: koho@nm.beppu-u.ac.jp

編集後記

夏休みも終わり、後期の講義が開講しました。毎年、この時期は体調を壊してしまいがちで、気を付けていてもやはり休みボケからなかなか復活できない状況です。私自身がそうですから、学生はもっとかもしれません。

今年は例年とは違い台風が予想外の進路を通るといった珍現象が起きていますが、これから台風などが来ないことを祈ります。補講がないに越したことはありません。(甲)




国際交流



アートを通じた国際交流 ラマー大学&別府大学 アートコラボ展



自身の絵について語り合いました



共同で絵画を制作

7月17日(日)～30日(土)に、別府市まちなか交流館において、『ラマー大学&別府大学アートコラボ展』が開催されました。この展覧会は別府市とアメリカ合衆国テキサス州ボーモント市が姉妹都市であることから別府市の国際文化課の主催で実現しました。ラマー大学からは11点の鉛筆やペンおよび彩色されたデッサン作品が寄せられました。別府大学からは油彩、水墨画、金碧彩色画、デッサン、デザイン、マンガなどを出品しました。

搬入には、ラマー大学の学生マリーさん(Mary Wilbur)とゴンザロくん(Gonzalo Alvarez)、別府大学からは松下依里香さんと丸岡あすかさんが参加し、展示作業は学生同士が和気あいあいとした中で進められました。

18日の別府大学のオープンキャンパスのイベントでは、マリーさんとゴンザロくん、別府大学の丸岡さんと岩本峻太郎くんが自身の絵の制作について語ってくれました。遠く離れた大学でそれぞれに真剣に制作する姿を、来学した高校生とともにみることができました。展覧会とイベントがお互いの刺激となる交流として、来年以降も続けていく第一歩となりました。

なお、ラマー大学の作品は11月8日(火)～1月30日(水)まで、本学32号館の1階学生ホールで展示しますので、ぜひご覧ください。

宇佐と杵築で日本文化体験

日本語教育センター



和服姿で城下町を散歩

6月6日(月)、日本語教育センターの2次オリエンテーションを実施し、新入留学生30名と日本語教育担当者8名、国際交流ボランティアの6名の学生で、宇佐神宮と杵築の城下町を見学・散策しました。行きのバス内ではゲーム大会をしてボランティアの学生たちと交流しました。宇佐神宮では上宮・下宮で参拝の方法を習ったり、おみくじで運勢を占うなどの日本文化を体験したり、美しい神宮の風景をスマホで撮影したりする姿も見られました。

次に向かった杵築の城下町では、有名な杵築城や酢屋の坂を散策しました。希望者は和服にも挑戦し、体験館と楽庵で店員さんに着物や帯の好みを伝え、お気に入りの着物姿で町を歩きました。お寺の日本庭園の中で抹茶を飲む体験をした留学生もいて、短い時間でしたが古風な日本文化を存分に味わいました。